

2019

入学生用

履修要項

電子情報学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

2019 年度
理工学部 電子情報学科 履修要項

2019 年 4 月 1 日発行

編集発行 龍谷大学理工学部

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5

印刷 協和印刷株式会社

学生のみなさんへ

新入生の皆さんは、本学理工学部に入學し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。

大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けて弛まぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付けて欲しいと思います。

一方、理工学部では、社会的・職業的自立につながるキャリア教育に加え、社会の要請に応えるために「グローバルな視点を備えた科学・技術者」の育成をめざし、英語コミュニケーション能力とグローバル実践力を備えた人材の育成にも取り組んでいます。これらを実現するために、理学と工学における基礎から専門までの体系的な教育課程を編成するとともに、独自の学部・大学院一貫の理系グローバル教育を展開しています。

本冊子（「履修要項」）では、理工学部において勉学を進めていく上で必要となる重要事項が網羅されています。単位制度をはじめ、卒業・進級要件や履修登録、教育課程の編成・履修方法、学生生活に関する事項等が記載されていますので、学生の皆さんは必ず本冊子をお読みください。（教員免許状取得（「数学」、「理科」、「工業」、「情報」）に関する教職課程の説明は別冊「教職課程ガイドブック」に記載しています。）履修の仕方を誤ると留年や卒業延期に繋がる恐れがありますので、充分に気をつけて下さい。本冊子を読んで不明な点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口に相談に来てください。

さて、理工学部のカリキュラムでは、学生の主体的な学びを促すため、全学科とも第1セメスターを「学生が自主的かつ継続的に学修する習慣を身につける期間」として位置づけ、各学科の専門性を意識した独自の初年次教育プログラムを実施しています。また、皆さんの学習をサポートするために、数学、物理等の理工系基礎科目の個別指導をおこなう「初年次学習支援センター」や大学院生よるチューター制度等を連動させ、初年次から手厚い学習支援体制を整えています。

本学のグローバル教育推進センターが主催する本学北米拠点（Ryukoku University Berkeley Center: RUBeC）を活用した Berkeley Intercultural English (BIE) プログラムも用意していますので、利用して下さい。理工学部の皆さんには、専門科目が多くなる前の1年生と2年生の間に、夏・春の5週間のプログラムを履修するのがお薦めです。

また、理工学部独自のプログラムとして、2年次生を対象に、「ASEAN グローバルプログラム」を開設します。ベトナム、シンガポールを訪問し、現地企業で働く社会人との交流などを通じてグローバルな感覚を身につけることを目的としています。また、3年次では、大学で修得した知識や技術が実社会でどのように役立つかを実地で学ぶため、国内企業での学外実習にとどまらず、米国・シリコンバレーの近郊にある日系企業等で実習をおこなう「グローバル人材育成プログラム」を開講しています。さらに大学院まで進学を考えている皆さんには、北米拠点での大学院プログラムや理工学研究科独自の10校を超える海外の大学との学生交換プログラムも整っております。

繰り返しになりますが、本冊子を読んで不明な点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口に相談に来てください。履修の仕方が誤ったことにより、卒業延期等の事態を招くことがないようにしてください。

皆さんの学生生活が楽しく実りあるものとなることを願っております。

2019年4月

理工学部長 松木平 淳太

学 年 暦

学年暦として大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。

毎年度変更となりますので、必ず確認してください。

履修要項 WEB サイト<履修要項 WEB サイト>※ポータルサイトからもアクセス可能です。<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

[学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針 （「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・ 実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針]

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

理工学部教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針 [学士 (理学・工学)]

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[理工学部の学生に保証する基本的な資質・能力]

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。
- 英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。
- 幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

(思考・判断)

- 科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。
- 基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。
- 論理的能力・問題解決力を身につけている。

(興味・関心)

- 問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。
- 広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

(態度)

- 高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。
- 世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
- 日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

(技能・表現)

- 科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。
- 知的生産の技術を身につけている。
- 国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
- (3) 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文(卒業論文)」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び固有科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

[理工学部の教育内容]

- 仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」(2科目)を必修科目として設置する。
- 視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- 国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- 固有科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて開講する。

[教育方法]

- 学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。
- 全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

[学修成果の評価]

- 学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- 「特別研究」の評価は、論文等の成果物の評価と口述試問評価によって行う。

学生支援(修学支援、学生生活支援、キャリア支援)の方針

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間の成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学的および体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to face の面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知の掲示」のとおり行われるので十分注意してください。

大学からの連絡・通知の掲示

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行います。また、ポータルサイト上でも、適宜連絡や通知を行います。掲示やポータルサイトを見落とししたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る、また、ポータルサイトを確認する習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

〈各種掲示内容別の掲示板とその位置〉

掲示板の名称	掲示の内容	設置場所
理工学部掲示板		1号館
社会学部掲示板	履修方法、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること（一部休講・補講情報）	6号館 (2号館連絡通路)
農学部掲示板		9号館
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	1号館
瀬田教学部掲示板	履修方法など教育課程に関すること	3号館
教職センター掲示板	教職課程に関すること	3号館
キャリアセンター掲示板	就職、資格講座等に関すること	1号館
図書館掲示板	図書館に関すること	図書館前

(注)大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

(1) アクセス方法

手段	アクセス方法
Web 版	本学ホームページ (https://www.ryukoku.ac.jp/) の「ポータルサイト」からアクセスしてください。ポータルサイトの利用には全学統合認証の ID とパスワードが必要です。
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポート Web (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証の ID とパスワードが必要です。

(2) 公開期間

- ・休講：連絡が入り次第、休講日を含めて 30 日前から公開しています。
- ・補講：予定が入り次第、随時公開しています。
- ・教室変更（臨時）：変更日を含めて 30 日分を表示しています。
- ・教室変更（恒常）：変更日を含めて前後 30 日分を表示しています。

(3) 注意事項・補足

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。
- ・休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。
Web 版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・休講、補講、教室変更情報については、本学のポータルサイト以外に一部掲示板でも公開しています。

目 次

学生のみなさんへ	i
学年暦	ii
龍谷大学の「建学の精神」	ii
龍谷大学の教育理念・目的	ii
学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針策定の基本方針	ii
理工学部の教育理念・目的	iii
卒業認定・学位授与の方針 [学士 (理学・工学)]	iii
教育課程編成・実施の方針	iv
学生支援 (修学支援、学生生活支援、キャリア支援) の方針	v
ガイダンス	vi
大学からの連絡・通知の掲示	vi
休講・補講・教室変更情報	vii

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって	2
1. 長期的な履修計画を立てること / 2. 系統的に科目を履修すること 3. 自主的に学修をすること / 4. オフィスアワー	
II. シラバス	4
1. シラバスとは何か / 2. シラバスに記載されている情報 3. シラバスの利用方法	
III. 単位制度と単位の認定	5
1. 単位制度 / 2. 履修登録制度 / 3. 授業科目の履修 / 4. 授業時間 5. 卒業要件単位および学士号 / 6. 卒業見込 (卒業年次生対象) / 7. 進級制度 8. 入学前に修得した単位の認定	
IV. 授業科目の開設方法	8
1. セメスター制 / 2. 先修制	
V. 履修登録	9
1. 履修登録手続スケジュール / 2. 履修登録制限単位数 / 3. 予備・事前登録 4. 履修登録要件 / 5. 履修辞退制度 / 6. 配当セメスターの考え方	
VI. 成績評価	13
1. 成績評価の方法 / 2. 成績評価の基準 / 3. 平均点と GPA / 4. 成績疑義 5. 筆答試験の時期 / 6. 筆答試験の受験資格 / 7. 筆答試験の受験の注意事項 8. 筆答試験の答案の無効 / 9. 筆答試験における不正行為 10. レポート試験における不正行為 / 11. 追試験 / 12. 筆答試験時間	
VII. 教育支援	17
1. 学科の委員 / 2. クラス担任制 / 3. 教員との面談 / 4. T.A. 制度 5. チューター制度 / 6. 理工学部初年次学習支援センター / 7. L.A. 制度 8. ラーニングコモンズ / 9. Intensive English Program / 10. その他	

第2部 教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標	22
II 電子情報学科の教学理念と教育目標	24

Ⅲ 教育課程の編成・履修方法	28
1. 授業科目の区分 / 2. 必修科目・選択必修科目（基幹科目）・選択科目・随意科目	
① 教養教育科目の教育目的および履修方法	29
【2019年度以降入学生】	
1. 教養教育科目の必修科目・選択必修科目 / 2. 学科指定・クラス指定	
3. 教養科目について / 4. 教養教育科目の予備登録について	
5. 日本語科目等（留学生対象科目）	
② 固有科目の履修方法	38
【2018年度以降入学生】	
1. 専門基礎科目の履修方法 / 2. 専門応用科目の履修方法 / 3. 卒業・進級の要件	
4. 設置科目 / 5. カリキュラムフローチャート	
③ 他学科科目の履修	44
④ 卒業年次生の大学院授業科目の履修	45
Ⅳ その他の教育課程・教育プログラム	47
第3部 諸課程	
1. 諸課程	50
2. 特別研修講座・各種講座・試験について	50
第4部 学修生活の手引き	
Ⅰ. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室	56
Ⅱ. 授業等の休講措置に関する取扱基準	57
Ⅲ. 学籍の取り扱い	58
Ⅳ. 通学（自転車・バイク・自動車）	62
第5部 大学院進学を目指す方へ	
Ⅰ. 理工学研究科	64
Ⅱ. 入学試験	64
Ⅲ. 経済的支援（給付奨学金）	65
Ⅳ. 研究助成	66
第6部 付録	
Ⅰ. 教員名簿	68
Ⅱ. 龍谷大学瀬田学舎見取図	70

履修要項

目的
教育理念

履修心得
心履修
得の

履修心得
単位制度と
単位の認定

履修心得
授業科目の
開設方法

履修心得
履修登録

履修心得
成績評価

教育課程
編成方法
教育課程

教育課程
科
教養教育
目

教育課程
固有科目

教育課程
その他の
教育課程

諸
課
程

学
修
生
活
手
引
き

大
学
院
進
学
を
目
指
す
方
へ

付
録

履修の心得

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに、各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります）。卒業に必要な単位の修得は、学部に設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**」、および「**固有科目**」からなります。みなさんは、これらの「授業科目の区分」から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目（教養教育科目では「**基幹科目**」に該当）、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目（基幹科目）とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要がある、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

2. 系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間で学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義

計画等について記載したもの) によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

理工学部専任教員オフィスアワーの具体的な実施時間や場所は、理工学部掲示板、ポータルサイトでお知らせします。

- (1) オフィスアワーとは、学生が事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れて良い時間です。教員は授業の内容や学修方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。
- (2) 理工学部専任教員は各自定めた時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。ただし、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。オフィスアワーに教員を訪ねる際には基本的に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えておくと、円滑な問題解決につながるかもしれません。

Ⅱ シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。本学で開講されている全ての科目は、あらかじめ Web 上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学習計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル (授業テーマ)
- ② 講義概要
- ③ 到達目標
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習の指示
- ⑥ 系統的履修のための補足情報
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (各回の学修内容やキーワード)

※授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべて Web 上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学修時間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×15週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位
学期連結型授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×30週=180時間	180時間÷45時間(1単位につき)=4単位

○ 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×15週=45時間	45時間÷45時間(1単位につき)=1単位
学期連結型授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×30週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位

<単位の認定>

1つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること。（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限りません。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

セメスター制により、履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講されるサマーセッション集中科目を登録します。

第2学期履修登録は、第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時に学期連結型（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行う学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっていると云えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「**講時**」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

<授業配置時間>

	時間帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:20~10:50	○	○	○	○	○	○
2 講時	11:05~12:35	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:35~15:05	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:20~16:50	○	○	○	○	○	○
5 講時	17:00~18:30	○	○	○	○	○	○

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「**学士（理学）**」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「**学士（工学）**」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位（2013年度以前入学生は134単位）以上を修得しなければなりません。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています。（詳細は「第2部 教育課程」の「Ⅲ 教育課程の編成・履修方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。（9月卒業）

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

6. 卒業見込（卒業年次生対象）

「卒業見込」とは、4年次の学生がそのまま学修を続けて学年末に卒業できることが見込まれる状態のことを言います。「卒業見込」の状態である時のみ、卒業見込証明書の発行を受けることが可能です。具体的には、次の2つの条件を満たしている学生が「卒業見込」と見なされます。

- 1) 4年次であること。
- 2) 修得済みの単位数と、履修登録している科目の単位数をあわせると、卒業要件単位（最低）数表に示す各区分の単位数以上になること。

通常は、4年次の履修登録により「卒業見込」となります。しかし、前期の単位取得状況により、「卒業見込」でなくなることがあります。万が一、「卒業見込」でなくなった場合には、必ず前期成績表配付後直ちに理工学部教務課に申し出てください。

7. 進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

8. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、以前に在学した大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅳ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

理工学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し*、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部 教育課程」の「Ⅲ 教育課程の編成・履修方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

*実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

<教養教育科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語セミナー I A, I B	「ドイツ語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位
フランス語セミナー I A, I B	「フランス語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位
中国語セミナー I A, I B	「中国語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位
コリア語セミナー I A, I B	「コリア語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位

<固有科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
MOT 演習	「MOT 概論」2単位

V 履修登録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自己の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項 WEB サイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。

2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、理工学部では次のとおり**履修登録制限**を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

学年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	24	24	24	49
後期制限単位数	25	25	25	

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在学学生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

⚠️ 上記履修登録制限単位数に含まれない科目

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 授業期間外に実施される科目
- ③ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換制度科目
- ④ 放送大学科目

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録-1) 予備登録……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。
(広義)	教養教育科目や言語科目（選択外国語科目）においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。
	必修外国語の再履修や一部の固有科目等においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録(本登録)……………	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が
(狭義)	確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講期（開講セメスター）が変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各セメスター（学期）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web 履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項 WEB サイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。
- ④ 履修登録は確実にを行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認
登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口へ申し出てください。また、出力した受講登録確認表は、必ず保管してください。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履修履歴は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点や GPA の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備 考
必修科目	
事前登録が必要となる科目(注)	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目 別表「◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

(注) 教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等	履修辞退の対象外とする科目
理工学部 全学科	集中講義科目
理工学部 数理情報学科	基礎セミナー
理工学部 環境ソリューション工学科	<2013年度以前入学生>「都市環境施設実験 A」、「都市環境施設実験 B」 <2014年度以降入学生>「都市環境施設実験」、「野外調査実習」

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web 履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に理工学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、第2学期（後期）の履修登録時に、履修辞退した科目の同一曜講時に学期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- (1) 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- (2) 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- (3) 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、理工学部教務課窓口にて確認してください。
- (4) 9月入学・半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め理工学部教務課窓口で相談してください。

V 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（=既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は、別途掲示等でお知らせします。

3. 平均点とGPA

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\Sigma (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想 A」（2単位）90点、「英語 I A」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学 I」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$\text{平均点} = \frac{(90 \times 2) + (80 \times 1) + (40 \times 2) + (78 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) GPA

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達後判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。GPAは、各教科の評価点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

$$GPA = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想 A」（2単位）90点、「英語総合 1（A）」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「環境と人間 A」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$GPA = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 1) + (0 \times 2) + (2 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

素点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

(3) 各科目の算入基準

平均点および GPA の計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

*再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、GPA は参考までに学業成績表に表記することとします。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口へ提出してください。**授業担当者に直接申し出てはいけません。**

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験（学期末・学年末試験）	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 筆答試験の受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 筆答試験の受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始 20 分以上の遅刻および 30 分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机の上に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 筆答試験の答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、理工学部教授会が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学・地域コンソーシアム科目）、放送大学科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他理工学部教授会が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に理工学部教務課窓口提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取り扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取り扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前に理工学部掲示板にて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		右記以外の 全科目 (60分)	理工学部固有科目 (2018年度以降入学生:専門基礎科目/2017年度以前入学生:学部内共通科目) (2018年度以降入学生:専門応用科目/2017年度以前入学生:学科固有科目) (90分)
1 講時	9:20	10:20	10:50
2 講時	11:10	12:10	12:40
3 講時	13:30	14:30	15:00
4 講時	15:20	16:20	16:50
5 講時	17:10	18:10	18:40

VII 教育支援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1. 学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は1年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担当	担当内容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学 生 生 活 委 員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就 職 担 当 委 員	就職活動について、キャリアセンターと連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次生配当科目「学外実習（キャリア実践実習）」の運営を担当します。

2. クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、定期的に開催し、学修相談・懇親交流を行います。また、食事会を実施するクラスもあり、学科全体の懇親会なども開かれます。

3. 教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のHPに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4. T.A. 制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによる T.A. (Teaching Assistant) を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5. チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型と、個人指導の個別型があります。常駐型の実施日時は掲示板等でお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6. 理工学部初年次学習支援センター

「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、外部講師・上級生が理工系基礎科目「数学・物理」を中心とした学習指導・学習相談を実施しています。

開設場所・開設時間等、詳細については、オリエンテーションおよび掲示板等でお知らせいたします。

7. L. A. 制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生による L. A (Learning Assistant) を配置しています。

8. ラーニングcommons

ラーニングcommonsは、学生が学修活動 (learning) のために主体的かつ自由に活用することができる共有の場 (commons) として設けられているものです。勉強したり討論したりする姿を互いに可視化することによって刺激し合えるよう、設備や什器 (机、椅子) などの形状や配置が工夫されています。

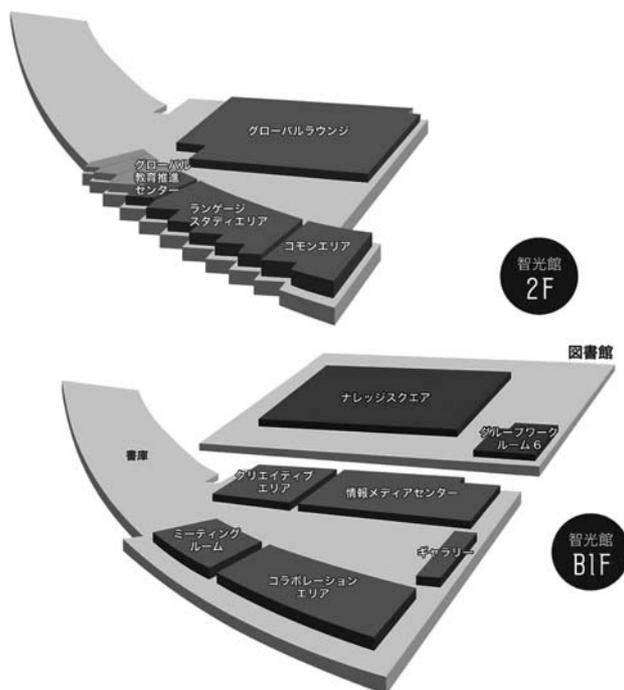
龍谷大学では瀬田学舎と深草学舎にそれぞれラーニングcommonsが設けられており、学生は両学舎のcommonsとも自由に活用することができます。

瀬田学舎のラーニングcommonsは、下に説明する3つのタイプのcommonsと2つの関連施設の集合体として構成されています。

(1) スチューデントcommons

スチューデントcommons (student commons) は、学生が一般的なグループ学修を行うための空間です。机を自由に並べたり、可動式のホワイトボードを用いたりして討論することができます。パソコンから投映するためのプロジェクターやポスターを印刷できる大判プリンターなども用意されていますので、授業や課外活動で行うプレゼンテーションの準備にも活用できます。

瀬田学舎のスチューデントcommons (智光館地下1階) は「コラボレーションエリア」と「ミーティングルーム」に分かれています。コラボレーションエリアは予約なしにいつでも自由に使えます。ミーティングルームの使用については、「瀬田教育学部」(3号館1階) に相談してください。



瀬田学舎ラーニングcommonsの配置図

(2) ナレッジcommons

ナレッジcommons (knowledge commons) は図書館内で対話や討論をしながらの学修を可能にしたスペースです。図書館の書架から持ち出した書籍や文献を用いて、グループで発表資料を作成したり、論文の構想を練ったりといった使い方ができます。

瀬田学舎のナレッジcommonsは図書館地下1階に設けられています。(1)のスチューデントcommonsとウッドデッキでつながっていますので、相互に行き来しながら利用することができます。

(3) グローバルcommons

グローバルcommons (global commons) は、外国語での対話環境を提供するために設けられたスペースです。留学や外国語修得に関する情報提供の場でもあります。

瀬田学舎のグローバルcommonsは智光館2階に設けられています。このうち「グローバルラウンジ」には英語をはじめとするネイティブスピーカーが待機し、気軽に言語の実践練習を行うことができます。「ラ

ンゲージスタディエリア」には視聴覚教材を用いて語学学修ができる機材設備や、留学に関する書籍閲覧コーナーなどがあります。

(4) 情報メディアセンター

スチューデントコモンズに隣接する智光館地下1階には情報メディアセンターのオフィスがあり、ノートパソコンをはじめとする情報機器の貸し出しを行っています。貸し出し可能な時間帯や貸し出し方法については、窓口で確かめてください。

(5) ライティングセンター

スチューデントコモンズと同じ智光館地下1階に「ライティングセンター」が配置されています。同センターには「アカデミック・ライティング」(学術的な論文やレポートなどを執筆する技法)に関する専門家が待機しており、授業やゼミで課される論文・レポートのテーマ設定や執筆方法についてアドバイスしてくれます。利用可能時間や利用方法については同センターで確かめてください。

9. Intensive English Program

Intensive English Program は、英語力の向上と英語への苦手意識の克服、英語によるプレゼン力と質問力の養成を目的としています。理工学部1・2年次生を対象として、少人数クラス(10~15名)で短時間(45分)・高頻度(週5回)で実施します。外国人ネイティブ講師の指導のもと本場の英語を体感し、アクティブラーニング形式で英語を学ぶプログラムです。

10. その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教 育 課 程

I 理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかなない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養科目**（**スポーツ科学**を含む）の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育科目**を設定しています。

固有科目

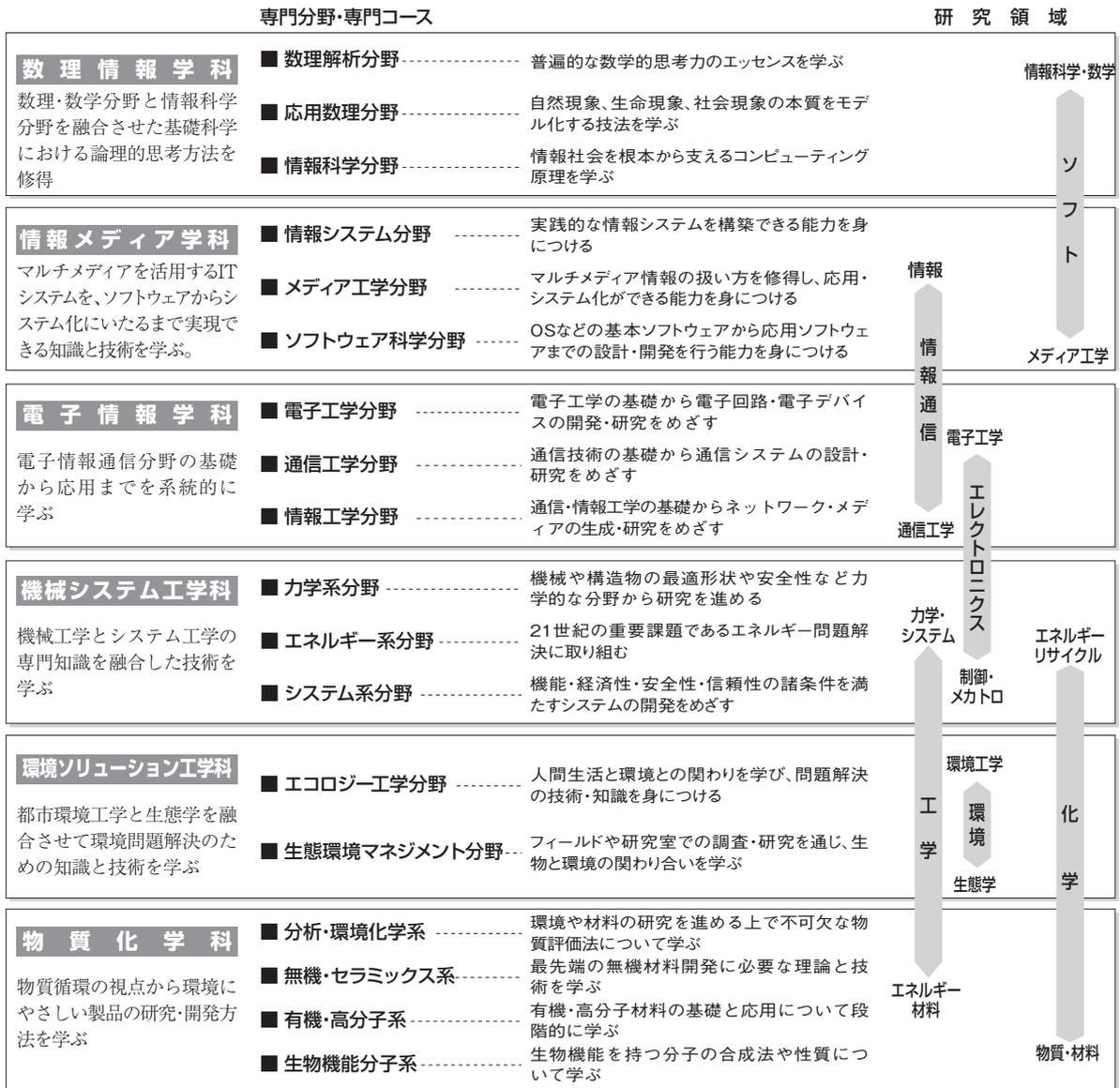
<専門基礎科目>

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者・研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）等を必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

<専門応用科目>

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、「**情報**」「**システム**」「**エネルギー**」「**材料・物質**」「**環境**」です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わせられた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



教育課程
編成方法
教育課程

科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習（キャリア実践実習）**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ 電子情報学科の教学理念と教育目標

－科学技術の進歩に対応した次世代の電子情報通信分野の技術者の育成－

今や携帯電話は必需品となり、ブロードバンドの普及によってインターネットへのアクセスもどんどん高速化するなど、情報通信環境はずいぶん進化しています。そのような IT 進化の恩恵を受けるだけではなく、その仕組みを学んで自分自身でハード作りに携わりたい、あるいは情報通信システムの開発に取り組みたい、などといった学生の期待に応えているのが電子情報学科です。

1 年次と 2 年次では、電子情報通信分野に共通する基礎を必修科目あるいは選択必修科目として学びます。特に、週 2 コマの授業により効果的に知識や技術が修得できるように工夫されています。

3 年次に各研究室に配属され、3-4 年次を通して、指導教員のもとで電子・通信・情報の各分野の専門科目を選択科目として履修するとともに、「科学技術英語」と「セミナー」により、研究・開発に必要な基礎的な知識や技術を学びます。3 年次の「特別研究」では、具体的な課題について研究指導を受け、報告書の作成と成果発表を行います。こうした研究を行うことにより強い目的意識を持って、主体的に科目を選択し系統的に学ぶことができるようになります。

4 年次になると、それまでに学んだ知識と技術を活かして「発展研究」に取り組み、「特別研究」と同様、報告書（卒業論文）を作成し、発表会において研究成果を発表します。このような過程により、各人の適性やキャリアプラン、専門分野に対する興味と関心に応じた学修を進め、将来の仕事へとつなげていきます。

■3 年次に研究科目を履修し、就職活動と大学院進学を視野に入れた学修の目的意識を養成

1 年次と 2 年次において電子情報通信分野の基礎を学んだうえで、3 年次からは研究室に配属され、具体的な研究課題に取り組みます。その過程で目的意識を持って専門科目を履修し、就職活動や大学院進学へと結びつけることができるようにします。

■最新の実験設備を活用した少人数制による実践的な教育体制

系統的に編成された幅広い分野の講義を優れた専任スタッフが行うとともに、実験・実習・演習科目を中心に実践的能力を育成します。特に、最新の実験設備を活用した 1 対 1 の学習サポートにより、学生の自発性や創造性を発揮させる教育体制をとっています。

■系統的な履修による電子情報通信分野の次世代の技術者の育成

電子・通信・情報の 3 分野の基礎から実践的応用までを系統的に履修できるようにし、電子デバイス、通信デバイス、情報システムなどの開発を手がけることのできる次世代を担う優れた技術者の育成に努めています。

●研究室の主なテーマ

<電子工学>

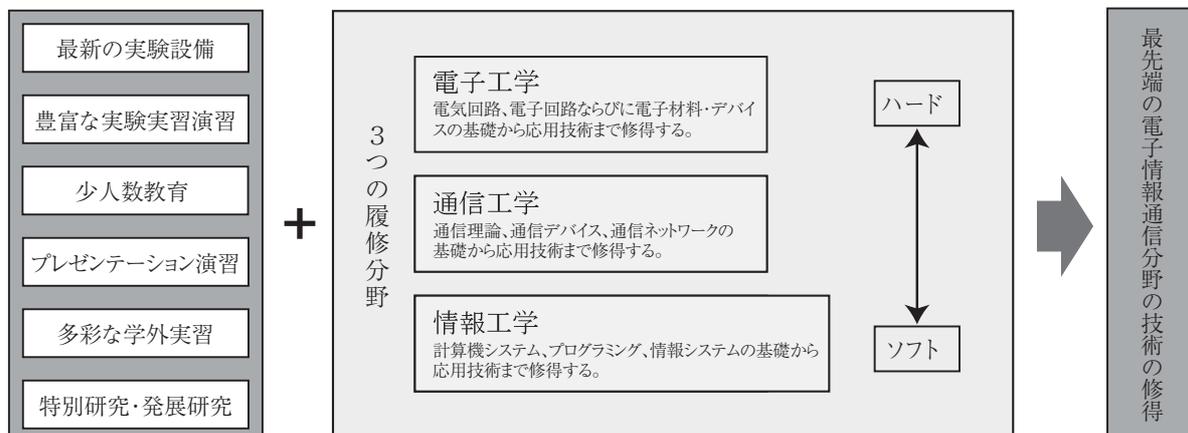
- 海川研究室／電子材料・電子デバイス・薄膜太陽電池の研究
- 木村（陸）研究室／薄膜トランジスタ・半導体シミュレータ・電子ディスプレイの研究開発
- 斉藤研究室／光材料・光デバイス・光計測法の研究
- 山本研究室／グリーンナノテクノロジー・グリーンデバイス・分子ナノエレクトロニクス・発光デバイスに関する研究
- 番研究室／ナノテクノロジーを用いた次世代記憶デバイス及び発光素子に関する研究

<通信工学>

- 石崎研究室／マイクロ波通信デバイスの研究
- 植村研究室／無線通信と可視光通信に関する研究およびロボットに関する研究
- 張研究室／電磁波計測・通信デバイスの研究
- 松室研究室／マイクロ波電力伝送の研究

<情報工学>

- 小堀研究室／生体・知能システムのモデル化とその応用に関する研究
- 木村（昌）研究室／機械学習とデータマイニングの研究
- 川上研究室／人工視覚システムの工学的デザイン
- 中川研究室／太陽コロナの物理現象、応用情報理論
- 小野研究室／進化計算最適化手法とその応用に関する研究



Ⅲ 教育課程の編成・履修方法

1. 授業科目の区分

理工学部教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目」「固有科目」から編成されています。さらに、教養教育科目は、「『仏教の思想』科目」「言語科目」「教養科目」で編成され、固有科目は「専門基礎科目」「専門応用科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



(1) 教養教育科目

教養教育科目は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし開講しています。瀬田学舎の3学部が共同して開講します。

(2) 固有科目

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う専門基礎科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する専門応用科目に分類されます。

2. 必修科目・選択必修科目（基幹科目）・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

(1) 必修科目

卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

(2) 選択必修科目（教養教育科目では基幹科目に該当）

指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。なお、数理情報学科では「コア選択必修科目」と呼びます。

(3) 選択科目

どの科目を履修するかはすべて学生に自由な科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があるため、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

(4) 随意科目

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。各種の資格取得にかかわる科目等が該当します。

①教養教育科目の教育目的および履修方法【2019年度以降入学生】

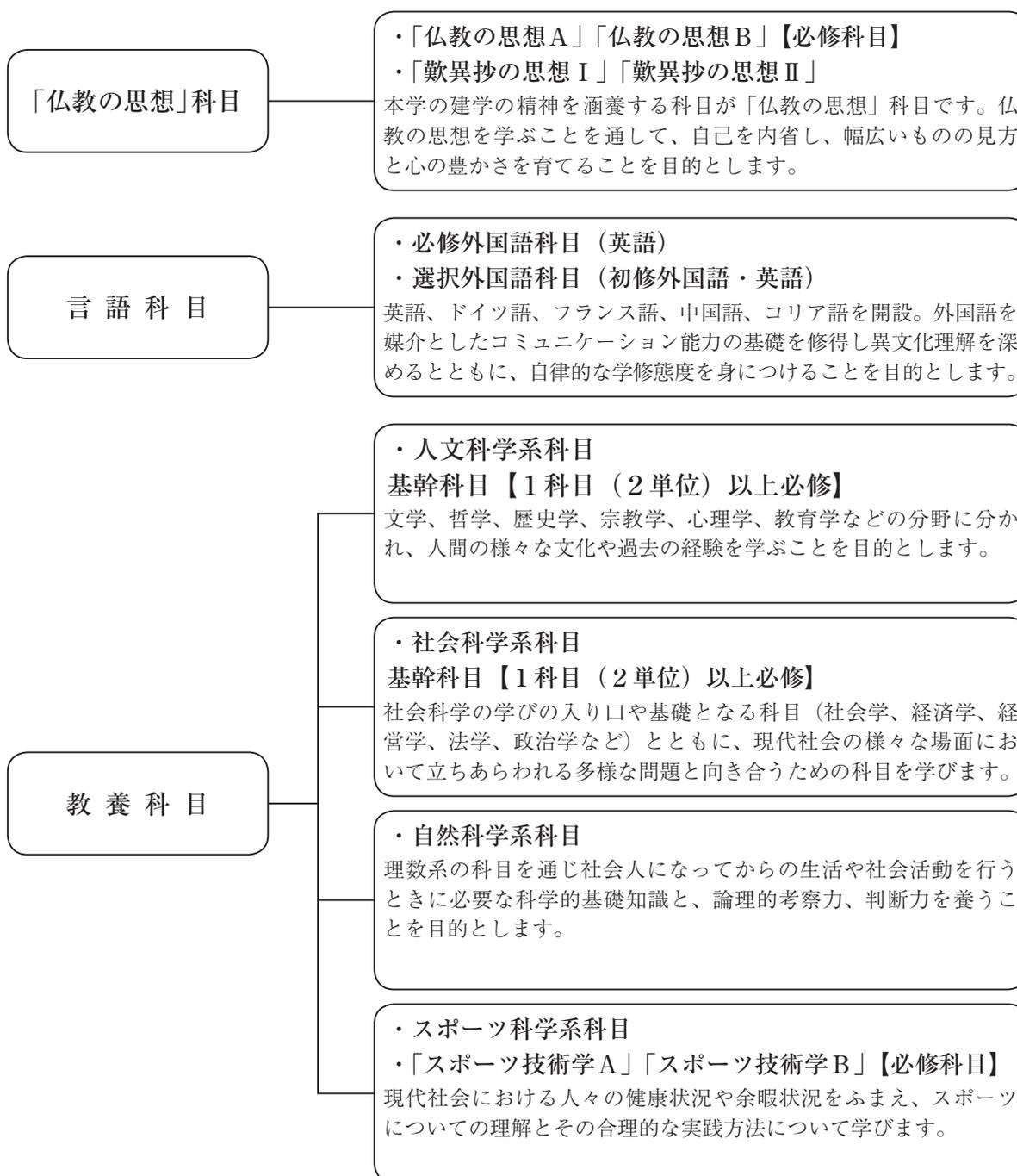
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



1. 教養教育科目の必修科目・選択必修科目

「教養教育科目」として開設している科目の中から、次表に示す科目を必修科目・選択必修科目（基幹科目）として合計16単位を修得しなければなりません。

科目区分	科目名	各単位数	合計単位数
「仏教の思想」科目	仏教の思想 A、仏教の思想 B	各2単位	4単位
言語科目	英語総合1(A)、英語総合1(B)、英語総合2(A)、英語総合2(B)、英語総合3、英語総合4	各1単位	6単位
教養科目			
人文科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目（2単位）以上	2単位以上
社会科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目（2単位）以上	2単位以上
スポーツ科学系科目	スポーツ技術学 A、スポーツ技術学 B	各1単位	2単位

(1) 仏教の思想の履修

「仏教の思想」科目区分のうち、「仏教の思想 A、B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

(2) 英語の履修

「言語科目」区分のうち、必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

(3) 教養科目の履修

「教養科目」区分のうち、「人文科学系科目」「社会科学系科目」に設置されている「基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）」の中から各1科目（2単位）以上を習得してください。（選択必修となります）

(4) スポーツ技術学の履修

「スポーツ技術学 A、B（各1単位）」は、配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。配当されたセメスターで単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

● 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想 A」「仏教の思想 B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

①必修科目

「仏教の思想 A」「仏教の思想 B」は必修科目です。配当された Semester において必ず履修してください。

②選択科目

「歎異抄の思想 I」「歎異抄の思想 II」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想 A」「仏教の思想 B」は同一の授業担当者になります。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示にしたがって履修してください。

④「仏教の思想 A」「仏教の思想 B」の再履修

配当された Semester で不合格となった場合は、2年次以降に次のとおり再度履修してください。なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	Semester	科目名
2年次～	3	「仏教の思想 A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想 B」(正規クラスを再履修として履修)
3年次～ (注)	5	「仏教の思想 B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想 A」(再履修クラス)

(注) 3年次以上は、同一 Semester で、A・B を同時履修することが可能です。

●言語科目

言語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語が開設され、必修外国語科目と選択外国語科目とに区分されます。言語科目のうち、必修外国語科目（英語）6単位を必ず修得してください。なお、6単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定されます。

(1) 目的と意義

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、教室外での自発的な研修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●英語（必修科目）の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。さらに、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を修得します。

1年次では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年次では発信能力の育成も視野に入れながら、英

語の4技能の充実を図ります。さらに2年間の必修を終えた後、3年次以降にも英語継続学修の動機付けを行います。

●英語セミナー（選択科目）の到達目標

英語セミナーは、必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップを図るとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中からドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語の4言語を「初修外国語」として開講しています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

(2) 必修外国語科目（英語）の履修

本当に使える外国語の力を身につけたいといった要望に応え、「読む・書く・聴く・話す」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

① 開講科目

科目	配当	科目概要	履修方法	再履修
英語総合1 (A)、 英語総合1 (B)	1 セメ	基礎的な英語力の見直し	クラス指定が行われます。 指定された科目を履修登録してください。	各科目の次の開講 Semester から再履修が可能です。予備登録を行い、履修を行ってください。
英語総合2 (A)、 英語総合2 (B)	2 セメ	「1」を発展させた基礎力の強化		
英語総合3	3 セメ	「1、2」をもとに4技能 (Reading、Writing、Speaking、Listening) のさらなる養成		
英語総合4	4 セメ			

② 習熟度別クラス編成

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレイスメントテスト）の得点結果によって編成します。

③ 再履修

必修外国語科目（英語）が不合格になった場合は、再履修科目を履修しなければなりません。

「英語総合（再）」は予備登録が必要となります。

履修方法等については、各学期の履修指導期間にポータルサイト等で周知しますので、希望の曜講時を選択し登録してください。なお、クラスは受講者数が均等になるように大学で割り振りしますので、受講予定者自身がクラスを選択することはできません。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

(3) 選択外国語科目の履修

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目であるセミナー科目が開講されています。より高度な運用能力（読む・書く・聴く・話す）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情について理解を深めることをめざします。

① 開設科目・配当セメスター

	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
初修外国語 ・ 初修外国語セミナー	ドイツ語ⅠA、ⅠB フランス語ⅠA、ⅠB 中国語ⅠA、ⅠB コリア語ⅠA、ⅠB	ドイツ語ⅡA、ⅡB フランス語ⅡA、ⅡB 中国語ⅡA、ⅡB コリア語ⅡA、ⅡB	ドイツ語セミナーⅠA フランス語セミナーⅠA 中国語セミナーⅠA コリア語セミナーⅠA	ドイツ語セミナーⅠB フランス語セミナーⅠB 中国語セミナーⅠB コリア語セミナーⅠB
英語セミナー	英語セミナー A1	英語セミナー A2	英語セミナー B1 英語セミナー C1 英語セミナー D1 英語セミナー E1 英語セミナー F1	英語セミナー B2 英語セミナー C2 英語セミナー D2 英語セミナー E2 英語セミナー F2
海外英語研修	-	海外英語研修(注)	-	-

(注) 1・2年次のみ履修可

② 履修方法

選択外国語科目は全て予備登録が必要となります。

「海外英語研修」については、グローバル教育推進センターにおいて、申込み手続きを行ってください。
(Web 履修登録不要)。

③ 先修制

選択外国語科目には下記のとおり先修制が定められていますので履修には注意が必要です。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナーⅠA、ⅠB	「ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得
フランス語セミナーⅠA、ⅠB	「フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得
中国語セミナーⅠA、ⅠB	「中国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得
コリア語セミナーⅠA、ⅠB	「コリア語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 教養科目について

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」に設置されている基幹科目(学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目)の中から各系列ごとに1科目以上(2単位以上)修得する必要があります。なお、2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として認定されます。

(1) 人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

(2) 社会科学系科目

社会科学(社会学、経済学、経営学、法学、政治学など)は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

(3) 自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

(4) スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

◆「スポーツ技術学」の履修について

「スポーツ技術学 A、B (各 1 単位)」は、必修科目です。配当された学期において必ず履修してください。

①履修方法

科目	配当	履修方法	再履修
スポーツ技術学 A	1 セメ	入学式当日に提出された「種目調査票」に基づきクラス指定を行います。	ポータルで周知を行います。通常の Web 予備登録とは異なるスケジュールとなるので必ずポータル等を確認してください。
スポーツ技術学 B	2 セメ	指定されたクラスを履修登録してください。	

②再履修

スポーツ技術学 A、B が不合格になった場合は、当該科目を再履修しなければなりません。

「スポーツ技術学 A、B (再)」は予備登録が必要となりますが、通常のスケジュールや運用とは異なります。履修方法等については、ポータル等で周知しますので、必ず確認を行ってください。

4. 教養教育科目の予備登録について

教養教育科目のうち、下記の科目は、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。この予備登録は、通常の履修登録に先立って行われます。予備登録の結果発表にしたがって履修登録を行ってください。

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。

- ①「英語総合 (再)」
- ②「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「ロシア語」の各選択外国語科目。
- ③「英語セミナー」、「ドイツ語セミナー」、「フランス語セミナー」、「ロシア語セミナー」の各科目。
- ④「自然観察法」
- ⑤「スポーツ技術学 A、B (再)」※通常の予備登録とは異なる方法で行います。

なお、上記以外の科目においても「予備登録制」をとる場合があります。ポータルサイトで周知を行いますので、必ず予備登録時に確認をしてください。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイトログイン」から、Web 予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。予備登録期間履修方法等については、各学期の履修指導期間にポータルおよび掲示板等で周知しますので必ず確認してください。

(2) 予備登録結果発表

予備登録結果は Web 履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時 (履修登録期間) については、履修説明会および理工学部掲示板で確認してください。

(3) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。
- ② 各年次について定められている予備登録できる上限科目数および履修登録制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

5. 日本語科目等（留学生対象科目）

留学生を対象に、「日本語」を開講しています。

履修・登録にあたっては必ず理工学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	履習単位の取扱い
日本語	1	1年次以上	教養教育科目の選択科目 (卒業要件単位として認定)

設置科目 [2015年度以降入学生]

○は必修科目 ●は選択必修科目(基幹科目) ○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次・semester			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
「仏教の思想」科目	仏教の思想 A	2	必修	○			
	仏教の思想 B	2	必修		○		
	歎異抄の思想 I	2				○	
	歎異抄の思想 II	2					○
言語科目	英語総合1(A)	1	必修	○			
	英語総合1(B)	1	必修	○			
	英語総合2(A)	1	必修		○		
	英語総合2(B)	1	必修		○		
	英語総合3	1	必修			○	
	英語総合4	1	必修				○
	英語セミナー A1	2		○			
	英語セミナー A2	2			○		
	英語セミナー B1	2				○	
	英語セミナー B2	2					○
	英語セミナー C1	2				○	
	英語セミナー C2	2					○
	英語セミナー D1	2				○	
	英語セミナー D2	2					○
	英語セミナー E1	2				○	
	英語セミナー E2	2					○
	英語セミナー F1	2				○	
	英語セミナー F2	2					○
	海外英語研修	2			○		
	ドイツ語 I A	1		○			
	ドイツ語 I B	1		○			
	ドイツ語 II A	1			○		
	ドイツ語 II B	1			○		
	フランス語 I A	1		○			
	フランス語 I B	1		○			
	フランス語 II A	1			○		
	フランス語 II B	1			○		
	中国語 I A	1		○			
	中国語 I B	1		○			
	中国語 II A	1			○		
	中国語 II B	1			○		
	韓国語 I A	1		○			
	韓国語 I B	1		○			
	韓国語 II A	1			○		
韓国語 II B	1			○			
ドイツ語セミナー IA	2				○		
ドイツ語セミナー IB	2					○	
フランス語セミナー IA	2				○		
フランス語セミナー IB	2					○	
中国語セミナー IA	2				○		
中国語セミナー IB	2					○	
韓国語セミナー IA	2				○		
韓国語セミナー IB	2					○	
日本語	1		○				

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次・semester			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
人文科学系科目 教養科目	哲学入門	2	選必	●			
	倫理学入門	2	選必	●			
	倫理学 A	2	選必	●			
	クリティカル・シンキング	2	選必	●			
	宗教学のすすめ	2	選必	●			
	宗教の世界	2	選必	●			
	日本の文学 M	2	選必	●			
	日本の文学 N	2	選必		●		
	西洋の文学 A	2	選必	●			
	西洋の文学 B	2	選必			●	
	言語学入門	2	選必	●			
	歴史入門	2	選必	●			
	日本の歴史 M	2	選必	●			
	日本の歴史 N	2	選必		●		
	日本の文化	2	選必	●			
	西洋の歴史 M	2	選必	●			
	西洋の歴史 N	2	選必	●			
	心理学入門	2	選必	●			
	教育原論 A	2	選必	●			
	教育原論 B	2	選必		●		
	倫理学 B	2					○
	アジアの歴史 M	2					○
	アジアの歴史 N	2					○
	心理学 A	2					○
	心理学 B	2					○
	学習・発達論 A	2					○
	学習・発達論 B	2					○

教育課程
科 教養教育
目

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次・セメスター			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
				1	2	3	4
教養科目 社会科学系科目	日本国憲法	2	選必	●			
	法学のすすめ	2	選必	●			
	政治学のすすめ	2	選必	●			
	社会学のすすめ	2	選必	●			
	地理学のすすめ	2	選必	●			
	経済学のすすめ	2	選必	●			
	経営学のすすめ	2	選必	●			
	国際学のすすめ	2	選必	●			
	文化人類学のすすめ	2	選必	●			
	社会調査のすすめ	2	選必	●			
	社会統計学のすすめ	2	選必	●			
	人権論 A	2		○			
	人権論 B	2			○		
	現代社会とメディア	2				○	
	現代社会と福祉	2				○	
	現代社会と法	2				○	
	現代社会と労働	2				○	
	現代社会の諸問題	2				○	
	環境と社会	2				○	
	平和学 A	2				○	
	ジェンダー論	2				○	
	国際社会論	2				○	
	地域論	2				○	
	企業と会計	2				○	
	社会思想史	2				○	
	情報倫理	2				○	
情報社会とメディア	2			○			

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次・セメスター			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
				1	2	3	4
教養科目 自然科学系科目	生活の中の数学 ★	2		○			
	生活の中の統計技術★	2		○			
	生活の中の化学 ◆★	2		○			
	生活の中の物理 ★	2		○			
	生活の中の生物学 ★	2		○			
	生活の中の地学	2			○		
	生命と科学	2				○	
	現代の技術	2			○		
	自然観察法	2				○	
	里山学	2		○			
	植物の自然誌	2			○		
	環境の科学	2				○	
	人類の科学	2				○	
	情報と人間	2			○		
	現代社会と栄養	2		○			
	スポーツ技術学 A	1		◎			
	スポーツ技術学 B	1			◎		
	健康とスポーツ	2				○	
	現代社会とスポーツ	2			○		
	スポーツ文化論	2				○	
教養教育科目 特別講義	教養教育科目特別講義	2		○			

⚠ 注意事項

- 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。
(例：1年次配当科目であれば、2年次以降生も受講可能)
- 上記配当セメスターに関わらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。
また、年度により不開講になることがあります。詳細は、時間割表および Web 履修登録画面で確認してください。
- 印の選択必修（基幹）科目は、人文科学系●印の科目のうち1科目（2単位以上）必修、社会科学系●印の科目のうち1科目（2単位以上）必修。
- ◆印「生活の中の化学」は物質化学科では履修不可。
- ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認められるのは1科目2単位までです。
(余剰分はフリーゾーンにも計上されません。)
- 印「海外英語研修」は1・2年次のみ履修可能。
- 同一の科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇M」「〇〇N」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」の「I」「II」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。
- ※印「日本語」は留学生対象科目
- 「教養教育科目特別講義」は複数の科目が開講されるが、卒業要件単位として認められるのは4科目8単位までです。

②固有科目の履修方法【2018年度以降入学生】

電子情報学科のカリキュラムは、大きく分けると、電子・通信・情報の各分野の講義科目と実験・実習・演習科目から成り立っている。

1年次では、数学や物理、電子工学、通信工学、情報工学に関する基礎科目を履修し、各分野の基礎を学ぶ。また、「基礎セミナー」では、大学での学び方自体を学ぶ。

2年次では、1年次に引き続いて基礎科目を履修するとともに、「電子情報実験Ⅰ」や「電子情報実験Ⅱ」などの実験・実習・演習科目により実践的に学ぶ。

3年次からは、専門科目を履修する。それと同時に、配属された研究室の指導教員のもとで「科学技術英語」により、研究・開発に必要な基礎的な知識や技術を学ぶ。「特別研究」では、具体的な課題について研究指導を受け、報告書の作成と成果発表を行う。

4年次では、引き続き専門科目を履修するとともに、指導教員のもとで「発展研究」に取り組み、「特別研究」と同様、報告書（卒業論文）を作成し、発表会において研究成果を発表する。

1. 専門基礎科目の履修方法

専門基礎科目の中でも当学科では次の科目を特に重要な科目として必修としている：「計算機基礎実習Ⅰ」、「計算機基礎実習Ⅱ」、「物理実験」、「科学技術英語」。

また、「学外実習（キャリア実践実習）」と「グローバル人材育成プログラムⅠ（海外キャリア実践教育及び実習 A）」は選択科目であるが、どちらかを履修することを強く推奨している。また、「グローバル人材育成プログラムⅠ（海外キャリア実践教育及び実習 A）」の履修を希望する者は、「グローバル人材育成プログラムⅡ（海外キャリア実践教育及び実習 B）」についても登録すること。履修にあたっては指導教員の指導を受けること。

2. 専門応用科目の履修方法

系統的に履修することが重要である。各学年への進級および卒業には単位数や指定科目などの要件があるので、その条件を余裕を持って満たすように計画的に履修する必要がある。

フローチャートをよく理解して選択し、シラバス（講義概要）には系統的履修科目が書かれていることがあるので、注意すること。

また、実験・実習・演習科目は大変重要であるので、特に真面目に出席することが求められる。

3. 卒業・進級の要件（2018年度以降入学生）

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように、必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて124単位の修得が必要である。

区分		単位数		
教養教育科目	必修	仏教	4	
		英語	6	
		スポーツ	2	
	選択必修	基幹	人文	2
			社会	2
	選択	12		
(小計)	(28)			
専門基礎科目	必修	8		
	選択	6		
	(小計)	(14)		
専門応用科目	必修	36		
	選択必修	20	B)	
	選択	26		
	(小計)	82		
合計		124		

⚠ 注意事項

- A) 教養教育科目の選択必修科目（基幹科目）の余剰修得単位は、教養教育科目の選択科目（必修・選択必修以外の科目を指す）として計上される。
- B) 20単位を超えて修得した専門応用科目の選択必修科目の単位は、専門応用科目の選択科目の単位として計上される。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。また、各学年に最低1年在学する必要がある。

進級年次	必要在学期間（最低）
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒業	4年間

(3)進級および卒業に係る修得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための修得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	18
	卒業要件総修得単位数	24
3年進級	必修科目単位数	28 C)
	卒業要件総修得単位数	62
4年進級	必修科目単位数	46
	選択必修科目単位数	10 D)
	卒業要件総修得単位数	90
卒業	必修科目単位数	56
	選択必修科目単位数	24 E)
	卒業要件総修得単位数	124

⚠ 注意事項

- C) 必修科目数28単位以上を修得しているだけでなく、以下の7科目をすべて修得していること。基礎セミナー、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機基礎実習Ⅱ、電子情報実験Ⅰ、電子情報実験Ⅱ、特別講義
但し特別措置として、3年進級に係る卒業要件総修得単位数を満たしている2年次留年生は、3・4年次開講科目の登録を半期3科目、通年で6科目（12単位）まで認める。
- D) 専門応用科目の選択必修科目単位数
- E) 教養教育科目の選択必修科目数4単位+専門応用選択科目の選択必修科目数20単位

4. 設置科目

区分	授業科目	単位数	配当年次 (前期・後期)								備考										
			1年		2年		3年		4年												
			前	後	前	後	前	後	前	後											
英語	科学技術英語	必修	2					○													
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○																
		化学概論Ⅱ	選択	2		○															
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○														
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○													
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○																
		地学概論Ⅱ	選択	2		○															
	実験・実習	物理実験	必修	2		○															
		化学基礎実験	選択	2				○													
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○		○														
		計算機基礎実習Ⅱ	必修	2		○															
		自然観察実習	選択	2	○																
		生物学実験	選択	2						○											
		地学実験	選択	2	○																
		学外実習(キャリア実践実習)	選択	2					○												
ASEAN グローバルプログラム		選択	2			○															
グローバル人材育成プログラムⅠ		選択	2					○													
グローバル人材育成プログラムⅡ	選択	2					○														
総合	科学思想史	選択	2				○		○												
	情報学概論	選択	2				○		○												
	環境科学	選択	2				○		○												
	資源エネルギー論	選択	2				○		○												
	人間工学	選択	2				○		○												
	工学概論	選択	2				○		○												
	生体情報概論	選択	2				○		○												
	技術者倫理	選択	2				○		○												
	情報と職業	選択	2				○		○												
	生態学概論	選択	2				○		○												
	地域環境概論	選択	2				○		○												
	地球環境概論	選択	2				○		○												
	MOT 概論	選択	2				○		○												
	MOT 演習	選択	2				○		○												
	知的財産概論	選択	2		○		○		○												
キャリアデザイン	選択	2	○			○		○													
キャリアプランニング	選択	2			○			○													
基礎科目	理数基礎・演習Ⅰ	選択	2	○																	
	理数基礎・演習Ⅱ	選択	2		○																
	線形代数学・演習Ⅰ	必修	3	○																	
	微分積分学・演習Ⅰ	必修	3	○																	
	線形代数学・演習Ⅱ	必修	3		○																
	微分積分学・演習Ⅱ	必修	3		○																
	電気回路・演習	必修	3		○																
	電子回路・演習	必修	3			○															
	情報・通信基礎	必修	2	○																	

履修希望者は必ずⅠ・Ⅱ
両方を登録すること原則として総合分野より4
単位以上修得すること

教育課程

固有科目

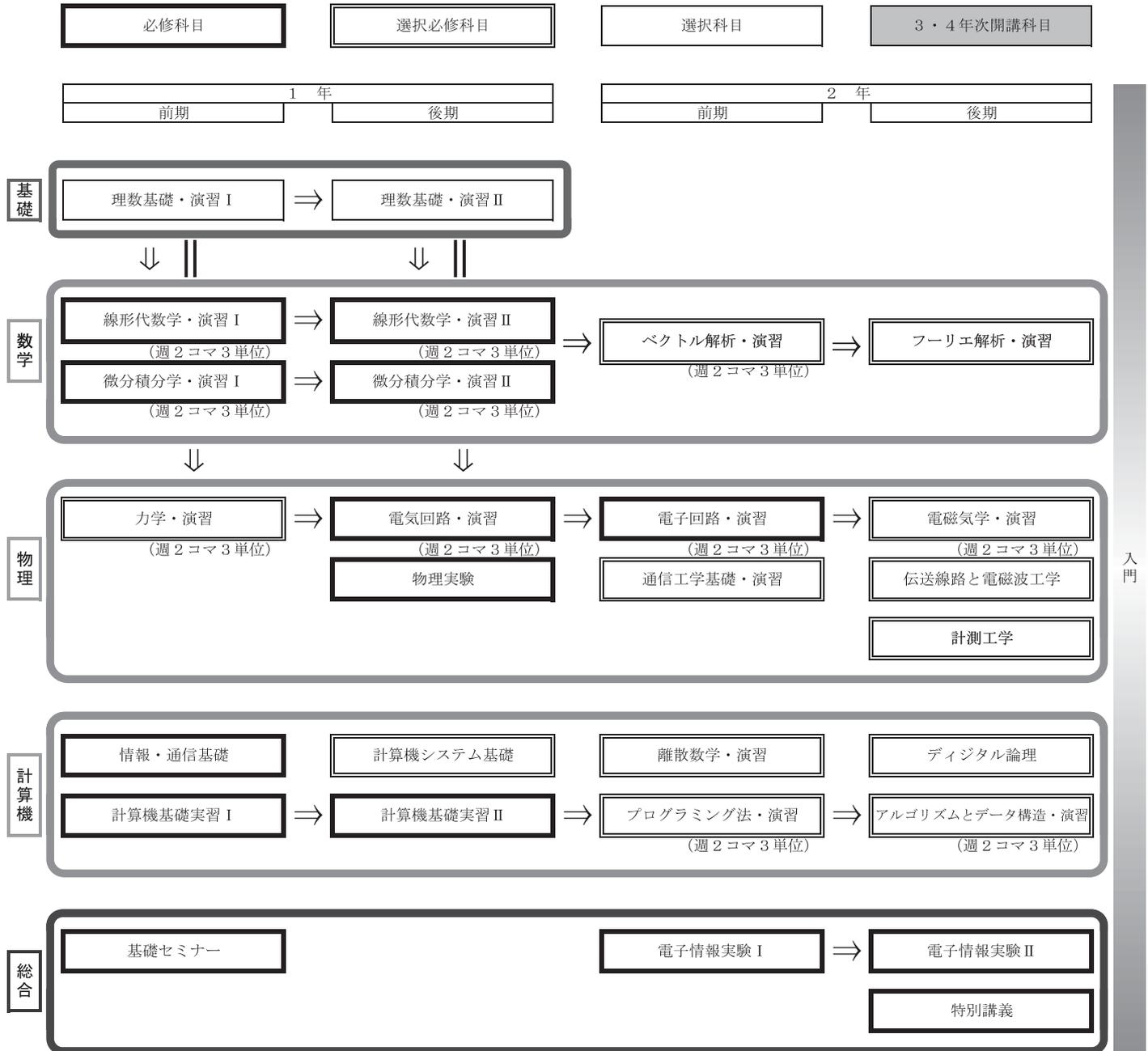
区分	授業科目	単位数	配当年次 (前期・後期)								備考			
			1年		2年		3年		4年					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
基礎科目	力学・演習	選必	3	○										
	電磁気学・演習	選必	3				○							
	計算機システム基礎	選必	2		○									
	通信工学基礎・演習	選必	2			○								
	ベクトル解析・演習	選必	3			○								
	フーリエ解析・演習	選必	2				○							
	デジタル論理	選必	2				○							
	プログラミング法・演習	選必	3			○								
	アルゴリズムとデータ構造・演習	選必	3				○							
専門応用科目	計測工学	選必	2				○							
	伝送線路と電磁波工学	選必	2				○							
	離散数学・演習	選必	2			○								
	回路設計・演習	選択	2					○			○			
	組込みシステム	選択	2						○			○		
	無線通信工学	選択	2					○		○				
	電子物性・材料	選択	2					○		○				
	半導体デバイス工学	選択	2					○		○				
	量子力学基礎	選択	2					○		○				隔年開講
	結晶工学	選択	2						○		○			隔年開講
	薄膜デバイス工学	選択	2						○		○			隔年開講
	電子工学	選択	2						○		○			隔年開講
	光通信工学	選択	2						○		○			
	アナログ回路基礎・演習	選択	2					○		○				
	高周波電子回路	選択	2						○		○			
	情報数学	選択	2						○		○			
	ネットワーク通信システム	選択	2						○		○			
	符号理論	選択	2						○		○			
	デジタル信号処理・演習	選択	2						○		○			
	情報セキュリティ	選択	2						○		○			
	計算機制御	選択	2						○		○			
	応用プログラミング・演習	選択	2						○		○			
	計算機アーキテクチャ	選択	2						○		○			
画像計測	選択	2						○		○				
認知科学と人工知能	選択	2						○		○				
オートマトン	選択	2						○		○				
演習科目	基礎セミナー	必修	2	○										
	プレゼンテーション演習	随意	②				○							
	電子情報実験Ⅰ	必修	2			○								
	電子情報実験Ⅱ	必修	2				○							
	特別講義 セミナー	必修	2				○					○		
研究科目	特別研究	必修	6					○						
	発展研究	選必	4								○			特別研究の単位を修得した者のみ登録可能

教育課程
固有科目

「必修」=必修科目、「選必」=選択必修科目、「選択」=選択科目、「随意」=随意科目（卒業要件単位に含まれない）
カリキュラム改革等の都合上、別の学期に開講する科目があります。対象科目等の詳細は、履修要項 WEB サイトで確認してください。

(URL) <https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

5. カリキュラムフローチャート



入門

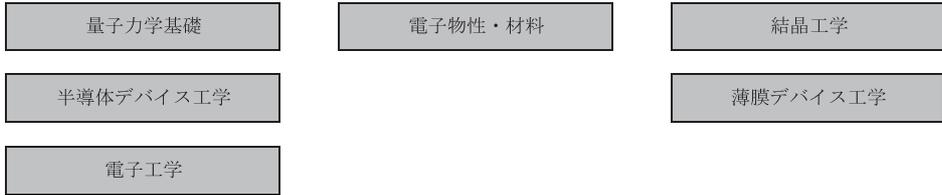


教育課程

固有科目

3年・4年次開講科目

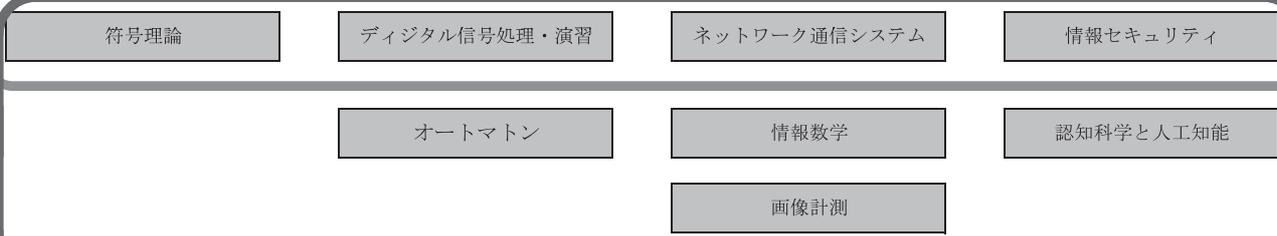
電子



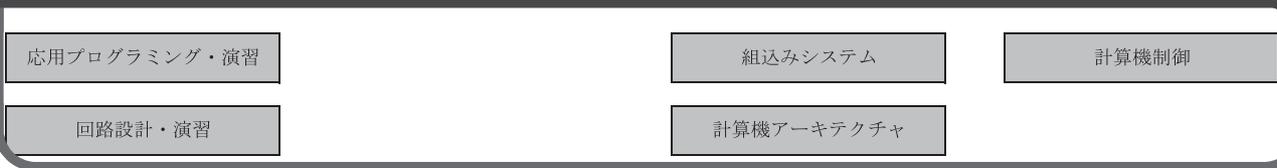
通信



情報



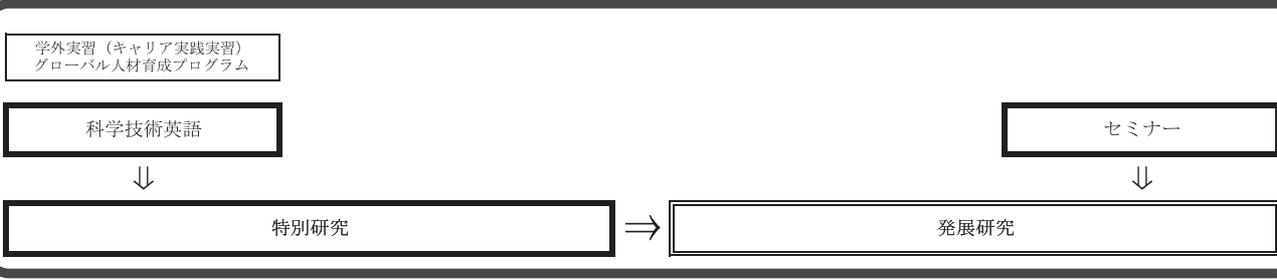
総合



3年 前期 後期

4年 前期 後期

総合



教育課程
固有科目

専門

③他学科科目の履修

理工学部では自主的学習プランの作成と幅広い知識の修得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を可能にしています。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1. 履修可能他学科科目

<科目>

各学科から提供された科目の中から、履修希望者の所属する学科が履修を認めた科目。
(理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。)

<配当年次・対象>

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。
履修要項で確認してください。

<開講曜講時>

理工学部教務課カウンターに設置している他学科の時間割表で確認してください。

2. 単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

【2018年度以降入学生】

<数理情報学科>

フリーゾーン科目として10単位まで認定。

<電子情報学科>

専門応用科目の選択科目として6単位まで認定。

ただし、科目提供学科での配当年次にかかわらず、卒業年次においてのみ、専門応用科目の選択科目として認定する。卒業年次以外に履修した科目は随意科目として認定し、卒業年次となっても変更はしない。

<機械システム工学科>

随意科目として認定。

<物質化学科>

専門応用科目の選択科目として6単位まで認定。

<情報メディア学科>

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

<環境ソリューション工学科>

専門応用科目の選択科目として4単位まで認定。

3. 履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』(理工学部教務課窓口にて配付)を提出してください。
(提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。)

履修登録制限単位数に含まれます。

⚠️ 注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。(その場合、掲示にて発表しますので注意してください。)

④卒業年次生の大学院授業科目の履修 (大学院修士課程推薦入学試験受験予定者対象)

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1. 出願資格

大学院科目を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

- ①本学理工学部の卒業年次生
- ②大学院科目を履修する能力を有する者
- ③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。
- ④各専攻において別途定める基準を満たす者

2. 出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

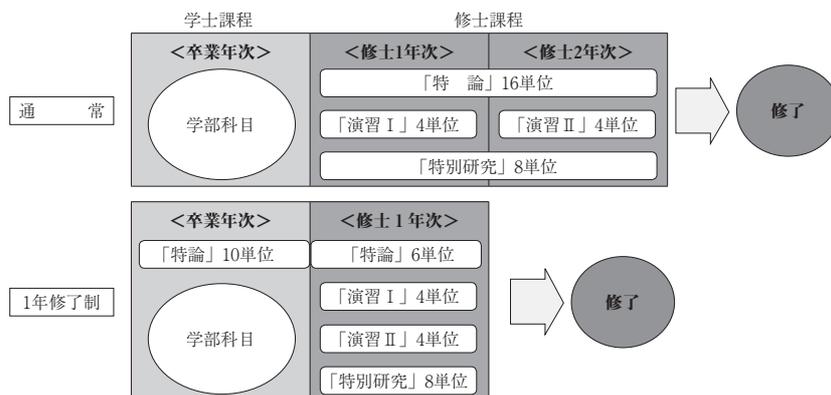
3. 単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4. 修士課程1年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習I・II（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ その他の教育課程・教育プログラム

理工学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. 留学・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学／国際交流プログラムについて	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点である RUC (Ryukoku University Berkeley Center) で展開される BIE (Berkeley Intercultural English) プログラムや短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスン、英語ディスカッション等さまざまな英語学習プログラムを提供しています。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館 1階／瀬田学舎 智光館 2階 ※単位認定に関する相談は理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp (QR コード) </p> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート (URL) http://www.mrepo.jp/ (QR コード) </p>
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約 50 の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、ポータルサイトの「大学コンソーシアム京都 単位互換申請」より行ってください。大学コンソーシアム京都の HP より出願しても無効となりますのでご注意ください。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、理工学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項 WEB サイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>
環びわ湖大学・地域コンソーシアム「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度とは、滋賀県内にある 12 の大学や短期大学の科目を履修し、それを所属大学・短期大学の単位として認定する制度です。</p> <p>滋賀県特有の内容をテーマにした科目や、各大学・短期大学の学部・学科・専攻で特徴的な科目などが提供されています。</p> <p>(「一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム」HP より一部抜粋)</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、理工学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項 WEB サイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「環びわ湖・地域コンソーシアム」 (URL) http://www.kanbiwa.jp/</p>

「放送大学科目」履修制度	担当窓口・関係情報
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>【数理情報学科、機械システム工学科のみ】 この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。 本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、2014年度以前入学生は教養教育科目（総合科目）の随意科目として4単位まで、2015年度以降入学生は随意科目として4単位まで認定されます。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1館1階 ※受講希望者は、「特別聴講学生出願票」を理工学部教務課窓口に提出してください。 (提出期限は例年6月中旬です。)</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項 WEB サイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL) https://www.ouj.ac.jp</p>
協定型インターンシッププログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学修を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。また、20講以上に及ぶ事前・事後学修では、グループワークを中心として進行し、課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階/瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項 WEB サイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシッププログラム リーフレット」 (インターンシップ支援オフィスにて配布) ・インターンシップ支援オフィス (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/internship/internship.html</p>
大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コーオペ教育）として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1館1階 または、インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階/瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(プログラムに関する問い合わせ) 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL: 075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項 WEB サイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」(インターンシップ支援オフィスにて配布) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL) http://www.consortium.or.jp/project/intern</p>

諸 課 程

1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西翼 1階 瀬田学舎 3号館 1階</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』 教職センター HP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p>
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>浄土真宗本願寺派教師（住職）となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階 履修要項 WEB サイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>【情報メディア学科、環境ソリューション工学科のみ】 資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階 履修要項 WEB サイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>

2. 特別研修講座・各種講座・試験について

課程	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	<p>広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。</p>	(大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	<p>刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。</p>	<p>矯正・保護総合センター事務部 深草学舎至心館 1階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館 1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼 1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館 1階</p>
法職課程	<p>各種公務員試験（国家一般職、地方上級等）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供することで、志望先への合格・進学を目的としています。</p>	<p>法学部教務課 深草学舎 紫英館 1階</p>

課程	目的・内容	担当部署
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階
<p>キャリア支援講座</p> <p>※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。</p> <p>※開講する学舎が限定されている講座があります。</p>	<p>将来のキャリアアップのための資格試験対策や就職活動のサポート、公務員試験対策などを目的とした各種講座を開講。信頼と実績のある専門学校等と提携し、学生の一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップしています。</p> <p><資格系・就職対策></p> <p>FP技能士講座（3級・2級AFP）／宅地建物取引士講座／旅行業務取扱管理者講座／エアライン就職対策講座／秘書検定講座（2級・準1級対策）／色彩検定講座（3級・2級対策）／介護職員初任者研修講座／MOS講座（Excel 2016、Word 2016）／社会福祉士国家試験講座／ITパスポート試験対策講座／基本情報技術者試験対策講座／CAD利用技術者講座（2級）</p> <p><語学系></p> <p>TOEIC®講座</p> <p><公務員試験対策></p> <p>公務員講座</p>	<p>キャリアセンター</p> <p>深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階</p>
REC コミュニティカレッジ	<p><REC コミュニティカレッジ></p> <p>「REC コミュニティカレッジ」は、一般向けの講座で、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」「自然・環境」「くらしと健康」「現代社会」「外国語」の計7コースで様々な講座を開講しており、年間延べ1万人余りの方々が学ばれています。</p> <p>本学学生はREC会員価格で受講できます。教養を深め、また、年配の方々と交流する機会として是非ともご利用ください。</p> <p>詳しくはREC（京都・滋賀）の窓口で配布している『REC コミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。</p> <p><龍谷講座></p> <p>「龍谷講座」は、市民を対象にした公開講座で、現代社会の要請に応え、本学における研究の成果を地域社会に還元し、大学の社会的使命の一端を果たすことを目的としています。1977（昭和52）年から開講しており、時代のニーズに応じたテーマを取り上げ、現在、半期3～4講座を開講しています。受講料は無料ですので、気軽に受講してください。</p>	<p>REC 事務部</p> <p>深草学舎 紫光館5階 瀬田学舎 RECホール</p>

学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項 WEB サイトに掲載していますので、確認してください。
(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学 HP『保健管理センター』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程を HP で確認するようにしてください。
その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AED について知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学 HP『障がい学生支援』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)

HP では主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）

Ⅱ 授業等の休講措置に関する取扱基準

(自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

○授業等の休講措置に関する取扱基準：

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html

「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

確認方法	説明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/	トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp	ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式 Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)	大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式 Twitter アカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。 Web ブラウザの URL 入力欄に左記 URL を直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。
(4) 公式 Facebook「龍谷大学」 https://www.facebook.com/RyukokuUniversity	大学全体の特色等を発信することを目的として、本学公式 Facebook ページを開設しています。緊急時には本アカウントからも、ホームページと同様の情報を発信します。 Web ブラウザの URL 入力欄に左記 URL を直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、「公式 Twitter」と「公式 Facebook」の利用を推奨します。

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

T	1 9	0	0 0 1
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 T：理工学部・理工学研究科 C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 H：政策学部 U：国際学部 N：農学部 S：短期大学部 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦） の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における 個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、**学籍簿**（入学手続き時に各自がWeb入学手続きにて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口へ届け出て下さい。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。

- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください)
なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。

- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。

- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)に紛失届等の提出をしてください。

- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。

- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により**依願退学**と**懲戒退学**に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることはできますが、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願ひ出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること。(学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願ひ出る資格もありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。)
 - また、休学期間中の者も退学を願ひ出ることができますが、除籍となった者は、退学を願ひ出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されていません。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- イ 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願ひ出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願ひ出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願ひ出ること。

(2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口にて大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願ひ出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願ひ出

休学者の休学事由が消滅したときは、願ひ出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願ひ出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6. 年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。
この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。
学籍異動上は次のような扱いになります。

例) 2018年度を留年(留年異動日2019年4月1日)



7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります(学則第14条)。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります(学則第14条第2項)。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせして下さい。

8. 編入学・転入学

本学の他学部(学科・専攻)、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学又は編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある。(学則第13条)
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい入学願書、履歴書及び修学証明書を提出しなければならない。(学則第15条)
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願出てその許可を受けなければならない。(学則第18条の3)

9. 9月卒業

第1学期(前期)末(9月30日)で卒業要件(修得単位・在学期間)を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます(要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません)。詳細については理工学部教務課窓口で相談してください。

Ⅳ 通学（自転車・バイク・自動車）

1. 自転車・バイク通学

自転車・バイクは、日々多くの学生が利用しています。

バイクはもちろんのこと、自転車も『軽車両』、の仲間です。一瞬の気の緩みを取り返しのつかない事故に繋がりがねません。学友の中でも、死亡事故が起こるなど、通学途上の交通事故が頻発しています。

また、「自転車・バイクが、狭い生活道路を、スピードを出して通行するので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。事故防止のために、交通ルール・マナーを遵守し、交通安全に十分配慮した運転を心掛けてください。万が一、交通事故に遭遇してしまった場合、負傷した、もしくは、相手に怪我を負わせてしまったという場合は、事故の大小に関わらず、119番・110番に通報し、相談してください。

2. 自転車・バイクの駐輪

瀬田学舎では、学内に駐輪する自転車・バイクは必ず登録申請のうえ、登録シールの交付を受けて利用車両に添付する必要があります。この登録制度は、自転車・バイク通学をされる皆さんが、安全運転意識の向上、事故防止、盗難防止、放置車両の減少など、通学中に起こる様々なトラブルを回避する目的で実施しています。

登録は無料で、一度登録すれば卒業・修了まで有効です。登録受付は生協ショップ SMYLE サービスカウンター（智光館1階）で随時行っています。

なお、自転車・バイクは必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置している車両は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損について大学は一切関与しません。

利用者は、盗難防止に努め、駐輪にあたっては、必ず施錠を行ってください。2つ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

（参考 URL）自転車・バイク登録について

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/bicycle.html

3. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは、交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設や商業施設の駐車場等に無断で駐車し、通学する学生が見受けられます。迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も寄せられ、これらの行為は社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

ルールに反した自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導をしたうえで、厳しく処分することとしています。学生の皆さんの節度ある行動を求めます。

4. 自動車の臨時入構許可

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由があるときは、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に以下窓口に相談してください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| ① 夜間にまでおよぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 | → 理工学部教務課 |
| ② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合 | → 理工学部教務課 |
| ③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 | → 学生部 |

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となります。必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

大学院進学を目指す方へ

大学院理工学研究科入学ガイド

理工学研究科の教育内容や入学試験等の詳しい内容については、理工学部教務課窓口へお尋ねください。

I 理工学研究科

理工学研究科では、修士課程、博士後期課程とも「数理情報学」「電子情報学」「機械システム工学」「物質化学」「情報メディア学」「環境ソリューション工学」の6専攻を開設しています。教育・研究スタッフの充実と設備・機器の拡充に力を注いでおり、一般企業や諸外国の研究機関との研究交流も積極的におこなっています。

本学附置研究所のひとつである科学技術共同研究センター、文部科学省の助成を得て設立された革新的材料・プロセス研究センター、古典籍デジタルアーカイブ研究センター、里山学・地域共生オープン・リサーチセンターなどの多くの研究施設において、様々な分野で先端的な学術研究活動を進めています。

II 入学試験

1. 修士課程

(1) 学内推薦入学試験・・・5月

■出願資格：以下の①と②を満たしている者

①龍谷大学理工学部を当該年度3月の卒業見込みの者

②各専攻が定める推薦基準を有する者（※推薦基準については、必ず入学試験要項で確認してください。）

■出願期間：4月下旬～5月上旬

■試験科目：口述試験

(2) 一般入学試験（4月入学）・・・9月（秋期）、2月（春期）

■出願資格：大学を卒業した者及び当該年度3月の卒業見込みの者

■出願期間：①秋期 8月中旬～8月下旬

②春期 1月上旬～1月中旬

■試験科目：外国語・専門科目Ⅰ・専門科目Ⅱ・面接（口述試験）

2. 博士後期課程

(1) 一般入学試験（4月入学）・・・2月

■出願資格：修士の学位を得た者及び当該年度3月修士の学位を得る見込みの者

■出願期間：1月中旬～1月下旬

■試験科目：口述試験（修士論文あるいはそれに相当する学術論文ならびに今後の研究計画に関して、専門分野の外国語も含めた内容に関する口述試験）

Ⅲ 経済的支援（給付奨学金）

本学では、学生の経済的な負担を減らし、勉学や研究に打ち込めるよう給付奨学金制度（返還不要）を設けています。本学大学院理工学研究科へ進学した学生に対して、以下の給付奨学金制度を設けています。詳細は、当該年度の「奨学金ガイドブック」をご確認ください。

1. 修士課程

(1) 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）＜自己応募＞

本学大学院理工学研究科修士課程への進学を奨励するため、本学学部から進学した者を対象に、給付する奨学金です。

＜申請時期・方法＞

以下の入学試験の出願期間（※）に所定の申請書を出願書類と併せて提出

○「大学院理工学研究科修士課程学内推薦入学試験」

○「大学院理工学研究科修士課程入学試験（秋期試験）」

※各入学試験の出願期間は、入試要項でご確認ください。

＜採用人数（予定）＞

24名（修士課程全体）

＜給付額（予定）＞

150,000円（入学年度のみ）

(2) 大学院研究奨励給付奨学金＜自己応募＞

本学大学院理工学研究科修士課程に在学し、自らの研究活動を計画的に実施する者を対象に給付する奨学金です。

＜申請時期・方法＞

当該年度の4月末までに所定の申請書を理工学部教務課へ提出

＜採用人数＞

別途掲示にて周知

＜給付額（予定）＞

300,000円（採用された年度のみ）

2. 博士後期課程

(1) 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）＜自己応募＞

本学大学院理工学研究科博士後期課程への進学を奨励するため、本学大学院修士課程から進学した者を対象に、給付する奨学金です。

＜申請時期・方法＞

「大学院理工学研究科博士後期課程一般入学試験」の入学試験の出願期間（※）に所定の申請書を入試出願書類と併せて提出

※出願期間は、入試要項でご確認ください。

＜採用人数（予定）＞

5名（博士後期課程全体）

＜給付額（予定）＞

150,000円（入学年度のみ）

(2) **大学院研究奨励給付奨学金<自己応募>**

本学大学院理工学研究科博士後期課程に在学し、自らの研究活動を計画的に実施する者を対象に給付する奨学金です。

<申請時期・方法>

当該年度の4月末までに所定の申請書を理工学部教務課へ提出

<採用人数>

別途掲示にて周知

<給付額(予定)>

300,000円(採用された年度のみ)

(3) **理工学研究科博士後期課程特別給付奨学金**

本学大学院理工学研究科博士後期課程において優秀な学生を確保することを目的に、入学試験の成績優秀者に対して給付する奨学金です。

<給付額(予定)>

235,500円(授業料の半額相当額)

<給付期間>

3年間(毎年度、学業成績審査があります)

Ⅳ 研究助成

大学院生の研究環境の向上を図るため、理工学研究科では、以下の独自の研究助成制度を設けています。(但し、休学中の者は除く)

1. 修士課程

(1) **理工学会補助**

申請にもとづき、50,000円(上限)/年度の学会発表にかかる旅費等を支給します。

(2) **大学院生研究援助費(年1回申請)**

申請にもとづき、6,000円(上限)/年度の図書費購入費、文献複写料を支給します。

(3) **学会発表援助費(年3回<上限>)**

教員の申請にもとづき、10,000円(1回当たりの上限額)×3回/年度を学生の学会発表援助費として支給します。

2. 博士後期課程

(1) **理工実験実習費研究助成**

申請にもとづき、200,000円(上限)/年度の研究助成金を支給します。各自の研究活動にかかる旅費、学会参加費等に充当できます。

(2) **理工学会補助**

申請にもとづき、50,000円(上限)/年度の学会発表にかかる旅費等を支給します。

(3) **大学院生研究援助費(年1回申請)**

申請にもとづき、6,000円(上限)/年度の図書費購入費、文献複写料を支給します。

(4) **学会発表援助費(年3回<上限>)**

教員の申請にもとづき、10,000円(1回当たりの上限額)×3回/年度を学生の学会発表援助費として支給します。

付 録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは1号館、2号館、4号館は077-543-内線番号、3号館、7号館は077-544-内線番号

【数理情報学科】				内線	【電子情報学科】				内線		
飯田	晋司	1号館	513	研究室	7513	石崎	俊雄	1号館	411	研究室	7798
大西	俊弘	3号館		1F教職センター内	7198	上原	徹	1号館	443	研究室	7414
角川	裕次	1号館	506	研究室	7797	植村	涉	1号館	410	研究室	7410
川上	竜樹	1号館	512	研究室	7512	小野	景子	1号館	405	研究室	7405
國府	宏枝	1号館	501	研究室	7503	海川	龍治	1号館	402	研究室	7402
阪井	一繁	1号館	503	研究室	7508	川上	肇	1号館	403	研究室	7403
佐野	彰	1号館	508	演習室	7501	木村	昌弘	1号館	406	研究室	7406
高橋	隆史	1号館	511	研究室	7511	木村	睦	1号館	407	研究室	7407
谷	綾子	2号館	312	研究室	7654	熊野	雅仁	1号館	437	研究室	7437
中野	浩	1号館	514	研究室	7518	小島	肇	1号館	443	研究室	7414
樋口	三郎	1号館	507	研究室	7507	小堀	聡	1号館	401	研究室	7419
馬	青	1号館	505	研究室	7505	斉藤	光徳	1号館	408	研究室	7487
松木平	淳太	1号館	504	研究室	7488	里井	久輝	2号館	311	研究室	7656
道元	徹心	4号館	318	研究室	7868	関本	達生	1号館	443	研究室	7414
村川	秀樹	1号館	502	研究室	7514	張	陽軍	1号館	412	研究室	7412
森田	善久	1号館	509	研究室	7509	中川	晃成	1号館	409	研究室	7409
山岸	義和	1号館	510	研究室	7510	番	貴彦	1号館	438	研究室	7495
						藤井	大輔	1号館	437	研究室	7437
						山本	伸一	1号館	404	研究室	7404
						松室	堯之	1号館	438	研究室	7495
【機械システム工学科】				内線	【物質化学科】				内線		
大塩	裕哉	1号館	319	研究室	7434	青井	芳史	1号館	205	研究室	7465
大津	広敬	1号館	301	研究室	7431	今井	崇人	1号館	307	研究室	7439
小川	圭二	1号館	315	研究室	7445	岩澤	哲郎	1号館	201	研究室	7461
金子	康智	1号館	302	研究室	7432	内田	欣吾	1号館	202	研究室	7462
古賀	功	2号館	315	研究室	7657	大柳	満之	1号館	206	研究室	7464
譽田	登	3号館	310	研究室	7640	Jonathan Augustine		2号館	314	研究室	7655
左近	拓男	1号館	313	研究室	7443	糟野	潤	1号館	211	研究室	7471
塩見	洋一	1号館	316	研究室	7458	河内	岳大	1号館	203	研究室	7463
渋谷	恒司	1号館	314	研究室	7444	白井健	士郎	1号館	310	研究室	7440
進藤	康則	1号館	308	研究室	7429	白神	達也	1号館	210	研究室	7470
田原	大輔	1号館	305	研究室	7435	富崎	欣也	1号館	209	研究室	7469
辻上	哲也	1号館	306	研究室	7411	中沖	隆彦	1号館	204	研究室	7661
堤	一義	1号館	304	研究室	7446	服部	陽平	1号館	309	研究室	7599
永瀬	純也	1号館	311	研究室	7441	藤原	学	1号館	212	研究室	7472
西村	和男	1号館	317	研究室	7504	別府	孝介	1号館	318	研究室	7466
野口	佳樹	1号館	303	研究室	7433	前田	尚志	1号館	310	研究室	7440
本田	尚義	1号館	308	研究室	7429	松中	岩男	1号館	307	研究室	7439
前田	英史	1号館	320	研究室	7408	宮武	智弘	1号館	207	研究室	7467
森	正和	1号館	312	研究室	7442	和田	隆博	1号館	208	研究室	7468
						渡辺	英児	2号館	329	研究室	7667

【情報メディア学科】

岩嶋 浩樹	7号館	コラボレーション 演習準備室
岡田 至弘	7号館	情報研究室 2
奥 健太	7号館	情報研究室14
片岡 章俊	7号館	情報研究室 5
寄能 雅文	7号館	コラボレーション 演習準備室
芝 公仁	7号館	情報研究室11
曾我麻佐子	7号館	情報研究室13
外村 佳伸	7号館	情報研究室 4
野村 竜也	7号館	情報研究室 6
橋口 哲志	7号館	情報研究室 12
長谷 智弘	7号館	情報研究室 7
藤田 和弘	7号館	情報研究室 1
三好 力	7号館	情報研究室 8
山本 哲男	7号館	情報研究室 3
吉見 毅彦	7号館	情報研究室 9
渡辺 靖彦	7号館	情報研究室10

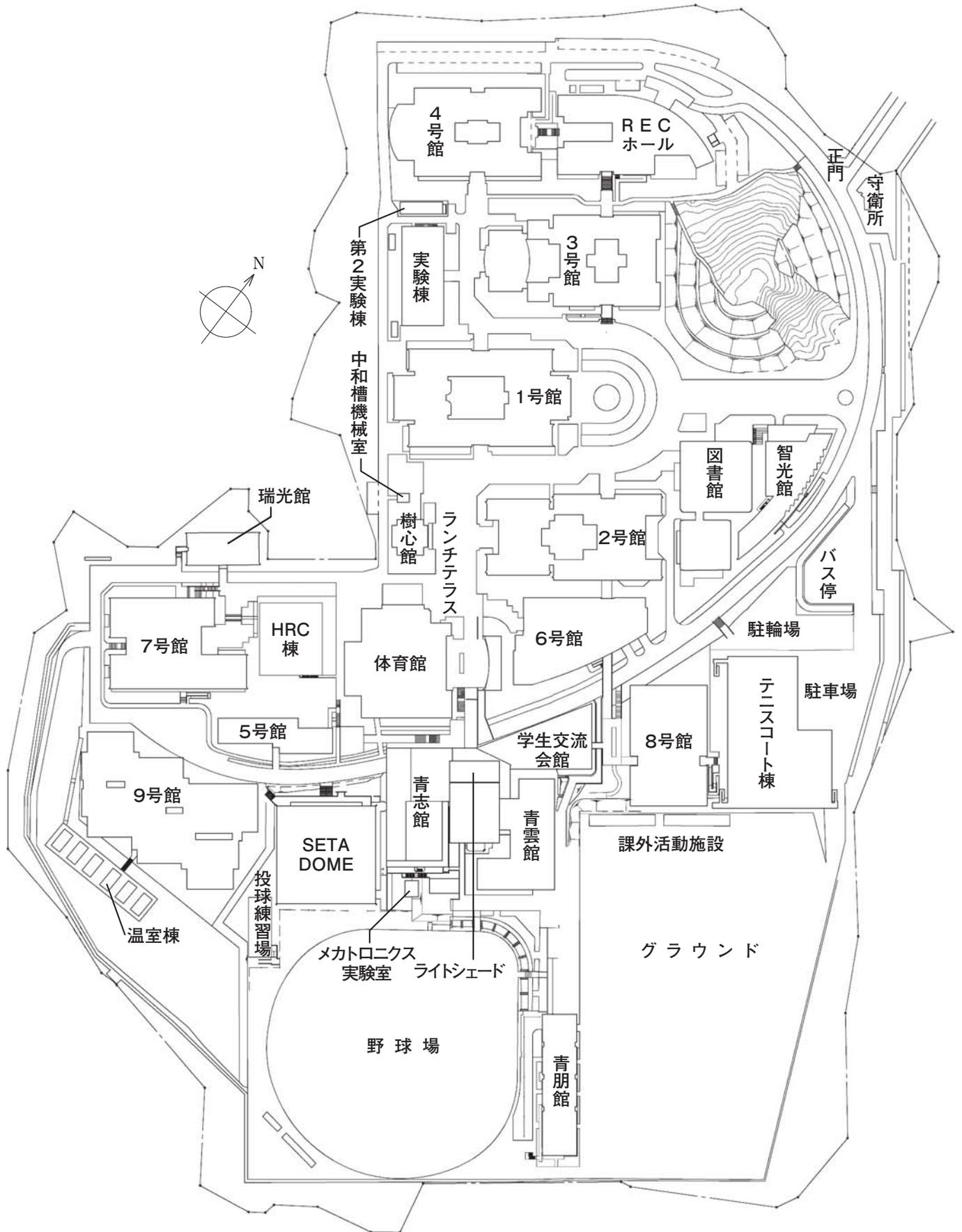
内線 【環境ソリューション工学科】

7148	浅野 昌弘	7号館	環境研究室14	7114
7132	市川 陽一	7号館	環境研究室 4	7104
7140	奥田 哲士	7号館	環境研究室 5	7105
7135	菊池隆之助	7号館	環境研究室 1	7101
7148	岸本 直之	7号館	環境研究室 7	7107
7142	越川 博元	7号館	環境研究室 2	7102
7144	林 珠乃	7号館	実験実習準備室	7126
7134	桧尾 亮一	7号館	実験実習準備室	7117
7136	丸山 敦	7号館	環境研究室12	7112
7143	三木 健	7号館	環境研究室11	7111
7137	水原 詞治	7号館	環境研究室 9	7109
7131	宮浦 富保	7号館	環境研究室 6	7106
7138	山中 裕樹	7号館	環境研究室13	7113
7133	遊磨 正秀	7号館	環境研究室 3	7103
7139	横田 岳人	7号館	環境研究室 8	7108
7141	Thomas T. Lei	7号館	環境研究室 10	7110

【理工学部教務課】

077-543-7730

龍谷大学瀬田学舎見取図



2019 年度
理工学部 電子情報学科 履修要項

2019 年 4 月 1 日発行

編集発行 龍谷大学理工学部

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5

印刷 協和印刷株式会社

